

## 高異型度漿液性卵巣癌の発癌機序の解明に関する研究

### 1. 研究の対象

2012年1月以降、当院で婦人科疾患に対して両側付属器摘出術を受けられた患者の内、病理学的診断でp53変異・卵管上皮内病変（Serous Tubal Intraepithelial Lesion : STIL）・漿液性卵管上皮内癌（Serous Tubal Intraepithelial Carcinoma : STIC）・高異型度漿液性卵巣癌（High-Grade Serous Ovarian Carcinoma : HGSOC）と診断された方、加えて今後、婦人科悪性腫瘍に対して手術を受けられる方のうち、本研究の対象基準を満たし、包括同意書により同意が得られた方

### 2. 研究目的・方法

卵巣癌は悪性度の高い疾患ではありますが、早期発見し早期に治療することで予後改善が期待されます。しかしながら、現在卵巣癌の早期発見のためのバイオマーカーは存在しません。さらに、卵巣癌は化学療法に抵抗性を示す症例が多く存在します。そこで本研究では、高異型度漿液性卵巣癌の発癌機序の解明と、早期診断のバイオマーカーおよび治療標的を新たに見出すことを目的とします。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2028年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：手術時摘出標本の余剰検体、手術前の余剰血液、診断に用いなかった組織検体、病理診断確定後の病理スライド・パラフィンブロックの余剰等

情報：病理結果や他の臨床検査結果を含む診療録から、患者情報（年齢・既往歴・合併症）、診断（血液検査、生理学検査、画像検査、病理検査、手術所見等）、治療情報（手術・化学療法・放射線療法・そのほか治療内容・成績および合併症等）等を抽出して解析に用います。

研究機関の長の許可日より試料、情報の利用を開始します。

### 4. 外部への試料・情報の提供

大阪国際がんセンターから、個人情報を加工した上で、大阪大学医学部附属病院へ試料・情報の提供があります。

### 5. 研究組織

#### （利用する者の範囲）

研究代表機関：大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学講座 小玉 美智子  
大阪国際がんセンター婦人科 北井 美穂  
当研究責任者・分担者・協力者として届け出た者

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、  
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒541-8567 大阪府大阪市中央区大手前 3-1-69

大阪国際がんセンター 婦人科

部長 北井美穂

TEL 06-6945-1181 Fax 06-6945-1900